

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年1月)

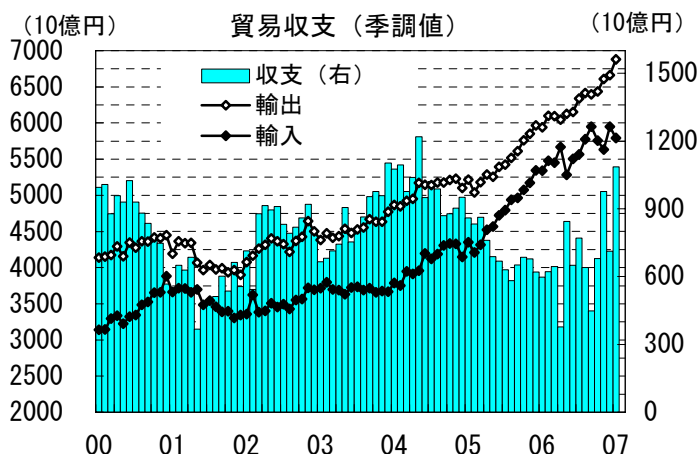
発表日2007年2月22日(木)

～旧正月要因で輸出が急増、2月と均してみる必要～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
06年1月	598	5938	5340	-354
2月	623	6101	5479	947
3月	645	6097	5452	968
4月	378	6048	5670	650
5月	845	6127	5283	381
6月	650	6155	5505	805
7月	771	6337	5566	858
8月	640	6415	5775	195
9月	448	6395	5946	1009
10月	679	6438	5758	609
11月	977	6611	5634	909
12月	712	6662	5949	1113
07年1月	1086	6879	5793	4

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年2月	20.7	5.3	14.6	8.5	5.4	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.8	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	10.0	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	1.2	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	1.6	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 1.6	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	11.3	15.2	18.0	13.1	4.4	5.4	3.7	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	11.1	8.0	18.3	13.4	4.3	▲ 0.2	▲ 3.1	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	8.9	3.6	6.5	16.9	12.3	4.0	▲ 6.2	3.3	10.9
8月	17.6	5.0	12.0	13.0	7.7	10.5	16.2	13.7	2.2	6.3	4.0	4.4
9月	15.3	7.2	7.5	7.5	8.5	13.1	17.0	14.1	2.5	2.7	▲ 2.0	7.5
10月	11.5	9.7	1.6	10.4	▲ 1.2	6.7	17.5	8.9	7.9	19.7	4.4	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	3.3	6.1	7.6	4.9	2.5	5.3	▲ 6.5	6.2
12月	9.8	5.4	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.7	3.2	4.4	▲ 10.6	8.8	7.2
07年1月	18.9	9.3	8.7	0.7	▲ 4.8	22.8	10.9	13.8	▲ 2.5	15.5	▲ 0.6	▲ 0.5

## ○ 1月の貿易収支は44億円の黒字

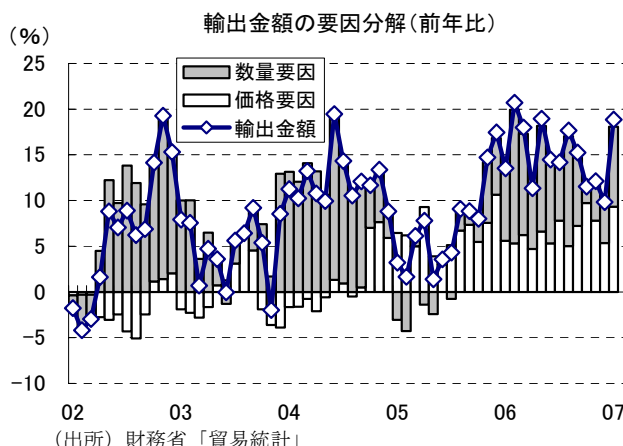
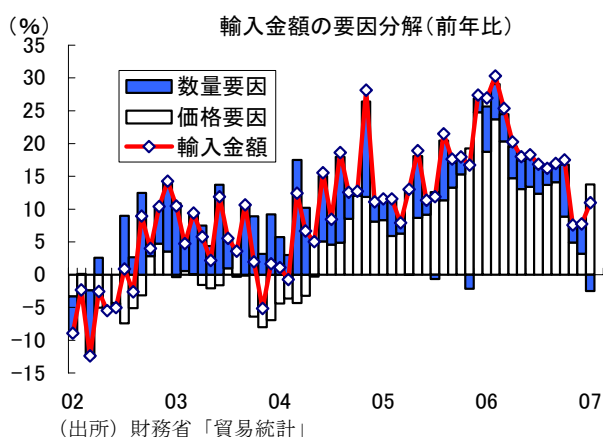
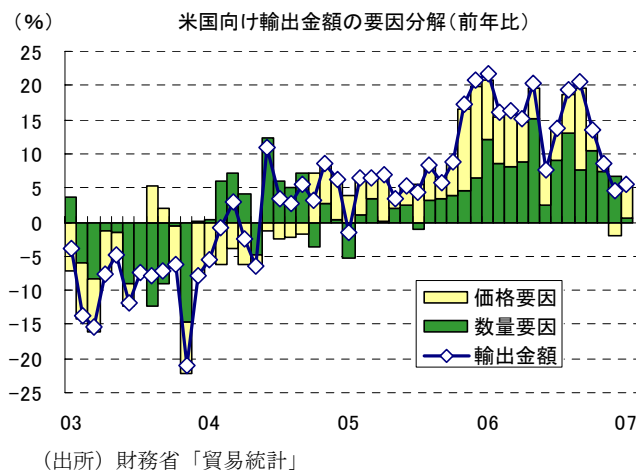
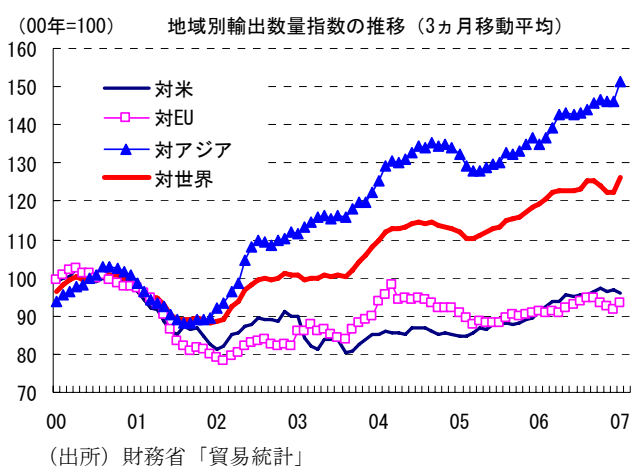
1月の貿易収支は44億円(原数値)とわずかながらも増加した。輸入金額は非鉄金属、液化天然ガス等の増加が寄与し、前年比+10.9%(前月同+7.7%)と前月から伸びが高まった。一方、輸出金額は前年比+18.9%(前月同+9.8%)と中華圏の旧正月要因による押し上げもあって大幅に増加した。輸出の増加ペースが高まったことにより昨年赤字であった貿易収支は黒字に転じた。

## ○ 旧正月要因によりアジア向け輸出が急増

輸出を数量ベースで見ると、前年比+8.7%(前月同+4.2%)と前月から伸びが高まった。地域別にみると、アジア向け(同+22.8%←前月同+8.4%)の伸びが大幅に拡大した一方、米国向け(同+0.7%←前月同+6.7%)は伸びが鈍化し、EU向け(同▲4.8%←前月同▲2.6%)はマイナスとなった。アジア向けは引き続き半導体等電子部品(IC)輸出や非鉄金属や鉄鋼などの素材関連が増加しているが、1月の急増に

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

については中華圏の旧正月による振れを指摘することができる。旧正月は2006年が1月29日であったのに対して、2007年は2月18日である。このため、1月は中華圏での休日が前年に比べて少ないことから前年対比で輸出は押し上げられる形となった。もっとも、2月には逆に休日が増加することにより、アジア向け輸出は大きく押し下げられる可能性がある。このため、基調を判断する上では1月と2月を均してみる必要があるだろう。他方、米国向け輸出は主力の自動車輸出が前年比+9.7%と伸びが鈍化した。米国景気の減速が影響している可能性もあるが、燃費性能などの競争力は高く、米国での日本車の人気は高いこと等を考えれば失速はないと思われる。06年に高い伸びとなった反動や現地生産の進展から伸びが縮小することはあっても自動車輸出は堅調な推移が続くことを見込む。EU向けについては、過去の数値が修正（EU加盟国は2007年1月からこれまでの25ヶ国からルーマニアとブルガリアが追加され27ヶ国に）されたこともあって輸出数量が2ヶ月連続で前年比マイナスとなっている。また、2007年1月からのドイツ付加価値税の引き上げの影響も懸念材料ではあるものの、EU経済に対する影響は限定的とみられること、円安・ユーロ高が続いていること等を考えれば、EU向け輸出は今後も底堅く推移すると考えられる。総じてみれば、1月の輸出は増加ペースが加速したが旧正月要因による押し上げが大きく、特殊要因を除けば輸出のトレンドに変化はないと思われる。基調としては、輸出は緩やかな減速傾向にあると判断する。



## ○ 輸出の減速は軽微であり、07年後半以降は増勢が強まる見込み

米国経済が減速傾向を辿っていることから、輸出のモメンタムも減速方向で推移する可能性が高い。もっとも、米国経済の減速の主因である住宅部門の調整が個人消費を大きく下押しする公算は小さく、雇用・所得の拡大が下支えすることで消費は今後も堅調な推移が続く見込みである。また、中国も高い成長が続くと

考えられ、為替の円安傾向が続いていることなども加味すれば輸出の減速は軽微であろう。輸出の先行指標であるOECD景気先行指数においても輸出が失速する兆しはみられていない。07年後半以降は、海外景気の復調によって輸出は増勢が強まることを見込んでいる。

